

オープンキャンパスで AR を使った学校紹介を実施

～ AR で現地訪問に付加価値を！～

エピソテック株式会社

AR コミュニケーション事業を展開するエピソテック株式会社（本社：東京都杉並区、代表取締役：内藤優太、以下エピソテック）は、国立大学法人山梨大学工学部電気電子工学科の 2022 年度オープンキャンパスにて、AR を使った写真展および新体験研究室ツアーを実施するための支援を行いました。



概要

2022 年 8 月 8 日（土），山梨大学は対面とオンラインのハイブリット形式でオープンキャンパスを開催しました。工学部電気電子工学科では高校生に向けて当学科で行っている教育や研究，また学生生活を紹介するイベントを実施し，その中で，エピソテックが開発した「Dive」システム（<https://www.episotech.com/>）を利用した AR による学生生活の写真展会や研究室紹介が行われました。AR 写真展では，来場者は自身のスマートフォンをかざして，会場内のいたるところに浮かび上がる写真たちを自由に歩き回りながら熱心に見ていました。AR を初めて体験する来場者も多く，新鮮な体験と沢山の驚きがあったようです。実際に使用される教室で，受講している，研究に取り組んでいる大学生たちの写真を見ることで，入学後のイメージを膨らませることができたようです。一部の研究室ツアーでも Dive システムが使われました。AR によって実験装置の特徴などが記載された説明文をみながら先生の説明を受けることができ，非常にわかりやすかったようです。このように，Dive システムは山梨大学電気電子工学科の魅力を伝えることに貢献することができました。

AR を使ったイベント詳細

イベントでは下記 2 つの用途で Dive は活用されました。Dive の操作は比較的易しく，バンターの手を借りずに電気電子工学科の教員が自らコンテンツを作成しました。

1. イベント会場での AR 写真展

受付終了後、来場者にはイベント開始まで会場で 10 分～30 分ほど待機していただきました。その待機時間を利用して、その会場で AR 写真展を開催しました。来場者にまず Dive アプリを自身のスマートフォンにインストールしていただき、会場に掲示されている Dive スポットの QR コードを読み込んでもらいました。スマートフォンを会場内のいたるところに向けると、大学生の受講している様子、実験や研究に取り組んでいる様子を写した写真たちが浮かび上がるように設定しました。来場者には自由に会場内を歩いてもらい、それらの写真を見ていただきました。来場者は熱心に見ていました。



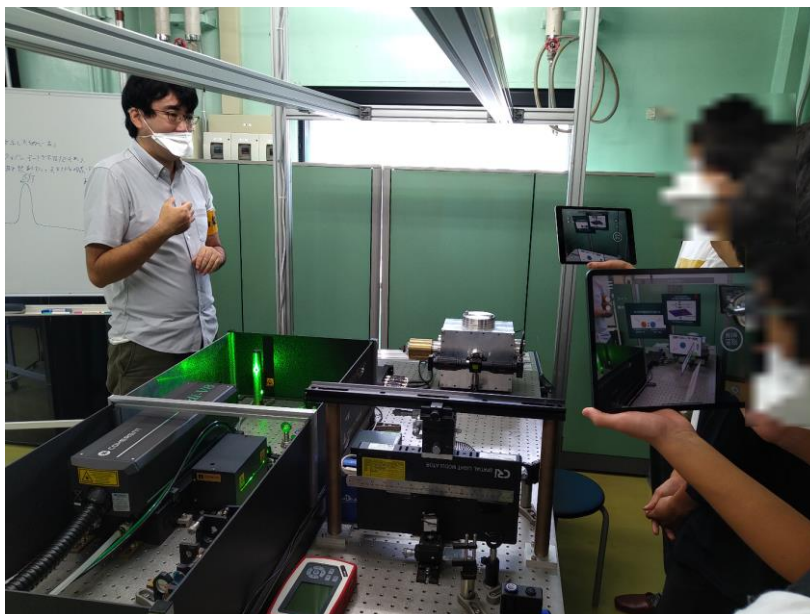
部屋に張られた Dive スポットの QR コードを読み取っている来場者



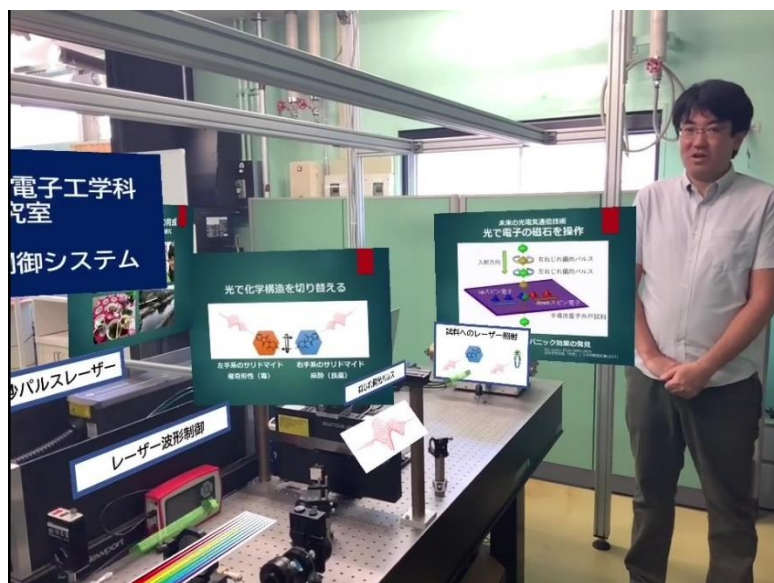
AR 写真展を体験している来場者

2. ARを使った研究室ツアー

研究室ツアーでは、実際に研究室に置かれている最先端の実験装置を見せながら、ここでどんな研究がおこなわれているのかを説明しました。Dive をインストールしたスマートフォンやタブレットをかざすと、実験装置上に、実験器具の説明やレーザー光の伝搬の様子が浮かび上がるようにしました。また、この研究の応用例などの説明文なども表示されます。AR を利用することによって、実際の光学系に仮想の光の映像などを重ねて表示することで、直感的にわかりやすく説明できました。この研究室ツアーの様子はオンラインで参加された方にも配信しました。



研究室ツアーでARを使いながら来場者へ研究紹介している様子



実験系の上に表示される様々なオブジェクト（オンライン参加者向けビデオより）

山梨大学電気電子工学科からのコメント

ネットワークが発達した現在、プロジェクトを使ってスライドや動画を示しながら学科紹介をするのであれば、来場しなくても YouTube で紹介動画を見るだけで済んでしまいますよね。実際、オンライン上でオープンキャンパスを行う事例が多くなっています。しかし、我々は対面で行うことにこだわりを持っています。直に先生や大学生の顔を見て話を聞き、普段学生はどんな場所でどんな勉強して、どんな装置を使って研究しているのかを肌で感じて欲しいと思ったからです。それが対面型のオープンキャンパスのいいところです。ただ、せっかく来ていただくのだから、より楽しんで、驚いていただく仕掛けを何か用意したいと考えていました。今回エピソテック社にご協力いただいて、AR 写真展示会という形で、実際に勉強している教室で様々な課題に取り組んでいる様子をご紹介することができました。また本学で行われている研究についても AR を使って分かりやすく説明することができました。現地に来ていただくことによって動画視聴では得られない、大学生がいるその場を体験していただくとともに、そこに AR 技術を使いデジタルの情報（映像であったり音声だったり）を提供することによって、その場で行われている学生の行動などを疑似体験したような印象を与えることができたように思います。

今回初めて、AR 技術をオープンキャンパスに利用することを試みました。今後は大学キャンパスをフィールドとして、来場者が散策して様々な場所で説明映像や音声を楽しんでいただくなど、同学科の魅力を伝えるツールとして Dive を活用してみたいですね。



電気電子工学科オープンキャンパス責任者、本間 准教授

Dive について

Diveについて

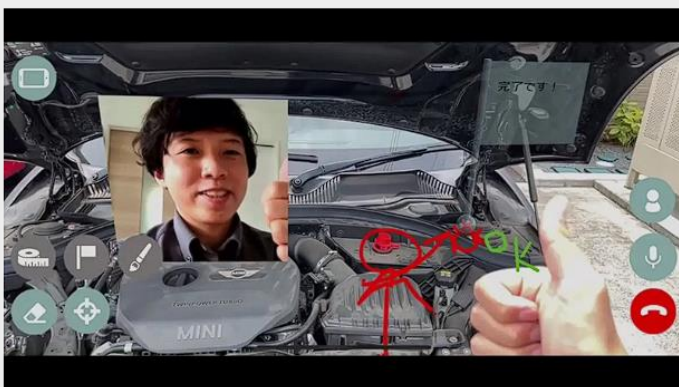


DiveはARを活用した現場支援アプリです。「現場にいなければならない」に対して、ARを活用したお手軽DXで解決します。本プログラムではDiveの下記機能の実証実験を実施します。

1. Diveスポット: Diveスポット機能を使う事で、意図をデジタル情報として可視化して現場空間と関連付けが可能になります。現場に訪れた人はスマホのカメラを現場に向けるだけで関連情報を直観的・網羅的に確認できます。この機能を用いて、熟練者の技術伝承や既存システム連携による有効活用を推進し、若手の無人サポートを試みます。



2. Diveコール: Diveコール機能を使う事で、リモートコミュニケーションでありながら指示語を使った「あれこれ会話」が可能になり、遠隔支援をストレスフリーで実施できます。Diveスポットによるサポートのみでは不足する場合も考え、人によるサポートを実現する事を目的に、本機能も備えております。この機能を用いて、熟練者の現場に向く工数を削減して業務の効率改善を試みます。



なお、DiveはDXを第一歩としてお使いいただくために、事業者が既に持っているハードウェアの活用、クラウドサービスによる提供、サブスクリプションモデルによるイニシャルコスト低減といった「手軽さ」を重視した商品設計になっております。アプリは無料の試用プランがあり、下記ストアよりダウンロード可能ですので、お気軽にその手軽さを体感いただけます。

iOS : <https://apps.apple.com/jp/app/interactive-supporter/id1548827223>

Android : <https://play.google.com/store/apps/details?id=com.Episotech.InteractiveSupporter>

NrealLight (ARグラス) : <https://play.google.com/store/apps/details?id=com.Episotech.DiveNreal>

国立大学法人山梨大学電気電子工学科について

本部所在地：山梨県甲府市武田四丁目 4-37

大学設置：1949 年

エピソテック株式会社について

所在地：東京都杉並区本天沼 2 丁目 4 0 番 1 2 号

代表者：代表取締役 内藤優太

設立：2020 年 10 月

URL：<https://www.episotech.com/>

事業内容：

1. AR/MR アプリケーションの企画・開発、およびサービスの提供
2. 上記実現のためのコンサルティング

【本リリース内容に関するお問い合わせ先】

エピソテック株式会社 担当：内藤

e-mail：info@episotech.com